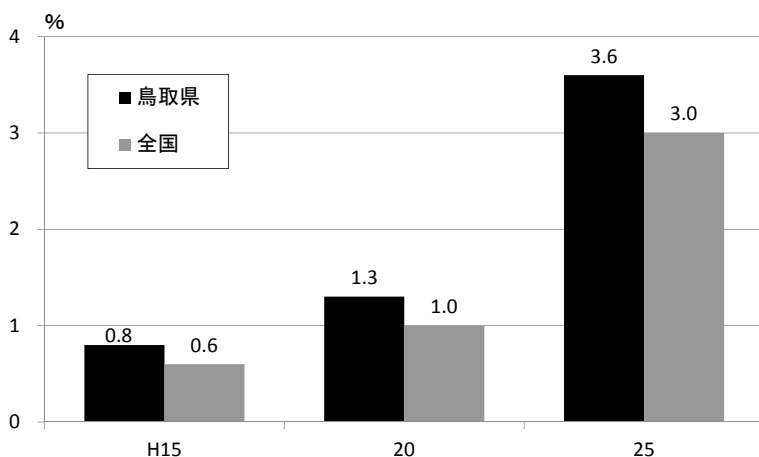


## 自然の恵みをエネルギーに！

住宅における太陽光を利用した発電機器の普及率



資料出所：総務省「住宅・土地基本調査」

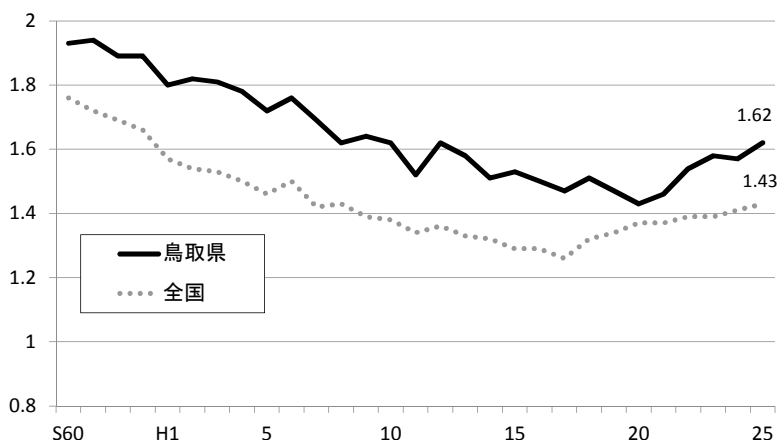
新たなエネルギー源として注目を集めている、太陽光、風力、水力など自然の力を利用した「再生可能エネルギー」。鳥取県内の一般家庭では、環境意識の高まりや政策の後押しなどを背景に、住宅用の太陽光発電設備の普及が進んでいます。総務省の「住宅・土地基本調査」によると、平成25年の普及率は3.6%と、5年前に比べ2.3ポイント上昇しました。

事業者側でも、平成26年2月に米子市内で国内最大級の太陽光発電所が稼働を始めた。江府町内の工場で冬に降る雪を貯蔵して設備の冷却や夏の冷房に利用するなど、特色ある取り組みが行われています。

再生可能エネルギーは、豊かな自然に恵まれた鳥取県で、今後も存在感を高めていきそうです。

## 子育て支援の成果

合計特殊出生率の推移



資料出所:厚生労働省「人口動態統計調査」

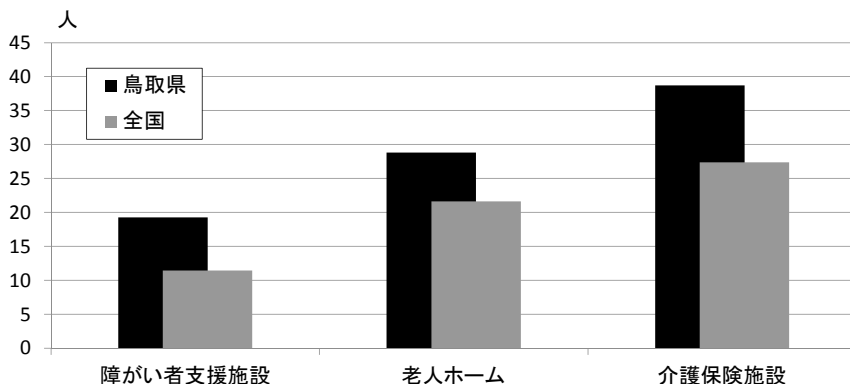
鳥取県は、全国に比べて人口当たりの小児科医数や産科・婦人科医数が多く、保育所の収容定員比率(0～4歳人口に対する定員数の比率)や三世帯同居率が高いなど、出産や子育てのサポートを受けやすい環境が整っているとされています。

こうした優れた環境をさらに改善して「子育てするなら鳥取県」といわれる地域をめざし、鳥取県は平成22年に「子育て王国鳥取県」の建国を宣言。その後、多子世帯の保育料軽減や小児医療費の助成など様々な子育て支援、少子化対策に取り組んでいます。

厚生労働省の人口動態統計調査によると、平成25年の鳥取県の合計特殊出生率(一人の女性が一生に産む子供の平均数)は1.62と前年よりも0.05ポイント上昇し、全国順位も前年の9位から7位に上がりました。県民、事業者、行政が一体となった子育て支援の成果といえるかもしれません。

## 共生社会への着実な歩み

各福祉施設の定員数



注：障がい者支援施設＝人口1万人当たり、  
老人ホーム・介護保険施設＝老年人口千人当たり

資料出所：厚生労働省「平成24年社会福祉施設等調査」、「平成25年度福祉行政報告例」、「平成24年介護サービス施設・事業所調査」

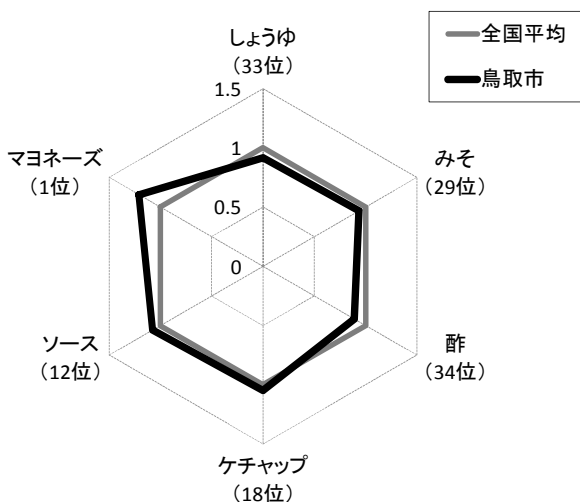
鳥取県は全国で最も人口の少ない県ですが、それゆえに性別や年齢、障がいの有無などに関わりなく、すべての人々が助け合いながら能力を発揮できる環境が整っています。

たとえば、鳥取県は人口当たりの定員数が、障がい者支援施設(全国11位)をはじめ、老人ホーム(全国7位)、介護保険施設(全国2位)などで多く、障がい者・高齢者福祉の基盤が充実しています。

なかでも障がい者福祉では、誰もが様々な障がいを理解し、支え合って共に生きる社会の実現を目指す「あいサポート運動」発祥の地として、全国に先駆けた手話言語条例の制定(平成25年10月)や、「あいサポート・アートフェスタ」(第14回全国障がい者芸術・文化祭とっとり大会、平成26年7月～11月)の開催など積極的な取り組みを行っています。

## 鳥取の人には「マヨラー」が多いかも

主な調味料の年間消費量  
(平成23～25年平均、全国平均を1としたときの指数)



注: ( )内は鳥取市の全国順位

資料出所:総務省「家計調査」

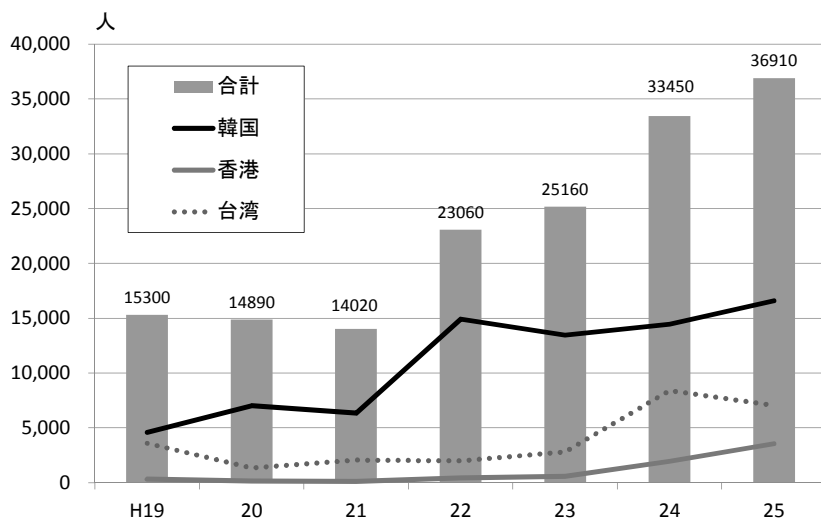
毎日の料理をよりおいしくいただくため食卓に欠かせない調味料。揚げ物などではどの調味料を使うのか人によって好みが変わるところですが、鳥取の人は、しょうゆなどの和風調味料よりも洋風の調味料を好む傾向があるようです。

総務省の「家計調査」から各種調味料の年間消費量(平成23～25年平均)を見ると、鳥取市はしょうゆ(全国33位)、みそ(同29位)などの和風調味料で全国順位が低いのに対し、ソース(同12位)、ケチャップ(同18位)など洋風調味料では高い順位とものが少なくありません。

なかでもマヨネーズの年間消費量は3137グラム(全国平均2597グラム)と全国1位です。マヨネーズをとりわけ好んで使う人のことを俗に「マヨラー」と呼びますが、鳥取の人には意外にマヨラーが多いのかも。

## 大交流時代に突入

鳥取県内の外国人宿泊者数の推移



資料出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」

近年、鳥取県内に宿泊する外国人旅行者が着実に増えています。観光庁の「宿泊旅行統計調査」によると、平成25年の外国人延べ宿泊者数は3万6910人と、統計を取り始めた平成19年以降、過去最高の水準となりました。

背景にあるのは、東アジア各地との交通アクセスの改善です。以前は定期便で県と直接つながっている韓国の旅行者が多数を占めていましたが、最近では旅行会社との提携によるチャーター便の就航などにより、台湾や香港からも多くの旅行者が訪れるようになりました。

鳥取県は、アジアを中心に世界各国の人々が訪れる「大交流時代」を迎えたといえます。県では今後、外国人旅行者へのきめ細かい情報発信や免税店の増設など、受け入れ体制のさらなる充実に取り組んでいくことにしています。